

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 28

学校名・団体名	南魚沼市立第二上田小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地域の自然・人々に愛着や誇りをもつ子どもの育成

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動の意義

50種類はいると言われている野鳥、絶滅危惧種の八丁トンボなどを生かした豊かな自然体験を行っている。そしてそれを守り育むための取組を進めている地域の人々を通して体験的な活動を拡げている。また、隣接する学校や佐渡、和歌山県の学校と愛鳥モデル校や緑の少年団活動、食育交流を通して交流を進めている。さらには、こどもエコクラブ、野生生物保護実績発表大会など様々なコンクール・大会での発表を行っている。

これらの活動を通して、地域の豊かな自然や文化、様々な経験をもつ人々に学ぶことを通して、自分たちが生活する上田地域への愛着や誇りを育むことを目標としている。また、活動を通して人と関わる喜びや互いを認め合う大切さを知り自己有用感を高めることをねらっている。

2 活動報告

(1) 愛鳥活動 野鳥を通して上田を見つめよう

○6月：親子探鳥会

地区育成会と連携し全校児童と保護者、地域民とで活動を行った。自然観察指導員・野鳥の会会員を講師に招いて里山コースと溪流コースの2班に分かれ観察した。帰校後は、全員で姿が確認できた鳥と声を確認できた鳥を観察記録にまとめた。この日、観察された鳥は「カルガモ」「サシバ」「ホオジロ」「セグロセキレイ」など23種類だった。鳥にとって子育ての季節ということもあり、枝やえさをくわえて飛んでいく鳥の姿も見られた。親鳥の愛情を感じ取ったり鳥のさえずりや新緑につつまれたりする時間となった。

○6月：愛鳥週間ポスターの作成

4年生～6年生が図工の時間に作成し、コンクールに出品したり校内に展示したりした。今年度は、県の最優秀賞である金賞・銀賞をともに受賞した。また、全国コンクールの入選へとつながった。野鳥を描き色を付ける活動が野鳥の細部まで調べたり観察したりする機会となっている。

○11月：愛鳥検定

環境委員会の児童が企画し、愛鳥検定を行っている。野鳥のシルエットや鳴き声から鳥の名前を当てたり野鳥のクイズに答えたりする検定である。児童は、愛鳥タイムに紹介された鳥から出題していた。昨年度までの卒業生が自作の鳥図鑑を作成し各教室に配付したり、サウンドリーダーを設置して鳥の鳴き声を身近で聞かれるようにしていることも鳥への関心を高めている。

(2) 上田の自然・文化・人々に学ぼう

○4月：鯉のぼり祭りへの参加

「上田の自然を育む会」が主催している地域登川への鯉のぼり設置に今年も参加した。100匹の鯉のぼりとともに児童が作成した「鳥のぼり」も設置した。休日の地域活動に児童、保護者

が自主的に多数参加していることが、地域を見つめる一つの機会となっている。

○ 5月：地域クリーン作戦

児童、保護者、教職員でゴミを探し拾いながら地区の清掃活動を行った。また、4年生は総合的な学習の時間を使って地域クリーン作戦を継続した。この活動を通して地域の環境保全に関する意識が少しずつ高まっている。

○ 6月：上田の宝さがし遠足

地域の登川沿いを使って全校で遠足を実施した。異学年の縦割り班で、地域の自然を写真に撮りながら水芭蕉公園まで歩いた。公園では、ネイチャーゲームを楽しんだ。この活動を通じた地域でのお宝探しが地域の自然を見つめ直す機会となっている。また、遠足のコースや水芭蕉公園を児童が活動しやすいように、危険がないようにと地域の皆さんが整備してくださった。この思いを児童に伝えることを地域への愛着や誇りを育むことへとつなげていきたい。

○ 7月：登川での生物観察・水遊び

4年生が地域の登川に稚魚を放流したり食物連鎖を学んだり、生き物を観察したりすることを通して生物多様性の大切さに気付くことをねらいとして活動している。児童は、水性生物を捕り、講師に教えてもらいながら観察・分類する中で、登川が多様な生物の命を育てていることに気付いていった。

○ 6月～11月：地域から講師を招いてのクラブ活動・土曜学校開放体験活動

クラブ活動（全8回）で、ビオトープの観察や地域に伝わる太鼓を地域の講師から教えてもらった。また、毎月実施している土曜学校開放と夏休み中のサマースクールで八丁トンボの観察や地域に伝わるからむし麵を食べる活動も行った。地域から招いた講師から児童が学んだりふれ合ったりする貴重な体験となっている。

○ 12月：学習を発信する

4年生は、学習発表会（文化祭）で、地域で学んだ自然の素晴らしさや大切さ、その自然を守る人々のことを発表した。また、壁新聞に学習をまとめ、県エコクラブコンクールへ出品した。

(3) 他校の児童との交流活動 緑の少年団・佐渡の子どもたち・和歌山の子どもたちとの交流

○ 6月・8月：通年：緑の少年団

緑の少年団は、「緑を愛し、緑を守り、育てる心を養う」ことを目的に活動している。当校もその1カ校として活動している。6月には、上田地区の2つの学校で緑の少年団入団式と交流集会を行った。また、8月には、市内や隣接する魚沼市の緑の少年団加入校の6年生が一堂に会して交流集会を行った。上田の自然を生かしたウォークラリーとカートンドッグづくりを通して交流を深めた。

○ 6月：佐渡行谷小学校との交流

朱鷺の森公園に近い佐渡行谷小学校と交流を行っている。6年生が修学旅行で佐渡を訪れ、行谷小学校児童から朱鷺のことを聞き、上田の自然のよさを伝える交流学習を行っている。今年度は、佐渡に伝承されている鬼太鼓を鑑賞する機会も設定してもらった。

○ 11月・2月：和歌山県岩代小学校との交流

今年は、東京で南魚沼産コシヒカリと南高梅の「日本一ジョイント販売」や互いの地域の自然の恵みを紹介し合う活動を行った。また、コシヒカリと南高梅、互いの活動を紹介し合う映像を届け合い、全校児童で食育の学習も行った。その中で、南高梅を育ててきた人々の思いや梅干し作りの大変さを学ぶことができた。

3 成果と今後の課題

(1) 自然への興味・関心の高まり

生き物が一生懸命、環境の中で生きていることに目を向けて行くことで、生命のすばらしさや尊さについて体験を通して学ぶことができています。

(2) 地域への誇りと愛着を育む

地域の育成会、自然を育む会、ふるさと協議会等との連携の中で、様々な行事や活動に多数の保護者や地域の方々が参加して、一緒に地域の自然の素晴らしさや人々の温かさにふれている。このことを通して、地域の豊かな自然や人々を誇りに思う児童の姿が見られるようになってきている。

(3) 自己有用感の高まり

自然体験活動や人々と関わる活動を通して、互いを認め合う姿が見られるようになってきている。また、人と関わることに喜びを感じ取っている児童も見られる。さらに、様々な交流や発表の機会を通して自己有用感を育てていきたい。